



「総合診療科」について

「なんでも診る」「患者を丸ごと診る」。

そんな医療を目指して生まれた「総合診療医」制度。総合診療科の医師たちは、様々な病気やけがなどを総合的な診察できるジェネラリストです。そうは言っても、何をするとこ

ろか分からない？
詳しい話を同善病院
(荒川区三ノ輪) 在
宅部門長の医師、稲
垣あゆみさんに聞きました。



稲垣あゆみさん

◆総合診療科はどのような科ですか

何でも相談ができて、何でも相談を受けることができる科です。循環器内科と言えれば心臓が専門、呼吸器内科なら肺が専門、というイメージがありますよね。「総合診療科は何が専門ですか」と聞かれたら、「あなたの専門医です」とお伝えします。幅広い病気が診られるという意味もあるし、病気だけでなく、社会的な困難さを持つている方、心理的な困りごとを持つている方、そういう方たちのすべてを診ることが出来ます。

◆あなたの体の専門医、という意味ですか

体だけではありません。その人のすべてを診ることができるとい意味です。体調が悪いとき、日本人は病院のどこの科に行くか自分で決めてしまえますよね。腰が痛いときは整形外科、おなかが痛いときは消化器内科……。でもその腰の痛みは骨からきているので

はなく、内臓疾患が原因ではないのか、というところを含めて診るのが総合診療科です。あまり難しく考えず、何か困りごとがあればとりあえず相談しようと思ってももらえればありがたいです。

◆そんなことで診療を受けていいのかと、みんな思ってしまう

病気が専門の医師が診るのが当たり前だったので、何でも相談して言われて戸惑うのは当然だと思います。同善病院は「地域に出ていこう」という活動があつて、先日、木村病院さんと一緒に「キッズホスピタル」（子ども病院）という催しに参加したのも、その一環でした。そういうところから親しみを持っていたら、気持ちのハードルを下げていくたかなと思います。

◆どこが悪いのか分からないけど調子が悪い、どこの科を受診すればいいのかが分からない。そんな場合も、総合診療科を尋ねればいいのですか

そうですね。体調の悪さの原因を突き詰めていくと、原因は心臓だったということもありますよね。そういう場合、循環器内科の専門医にお繋ぎするのも総合診療科の役割。どっかかりの窓口と考えてください。

◆やはりワンストップで様々な疾患を調べてくれる科に総合内科があります。違いはあるのですか。

総合内科は基本的には内科の疾患を調べるところです。総合診療科は内科だけでなく、皮膚の疾患やお子さんの病気なども診ていきます。がんの患者さんも、難病の患者さんの最

期を診る緩和ケアもしています。海外では「家庭医療」と呼ばれることが多いですね。

幼いころから何かあれば家庭医療の医師に相談する、必要に応じてその医師が専門医を紹介する、という流れが一般的です。日本では「かかりつけ医」が最も近いと思います。

◆同善病院が地域に出ていこうとするのはなぜですか

ひとつには地域の人たちを健康にしたいという思いがあるから。もうひとつは、病院自体も地域を形成する存在でありたいからです。病院が特別な場所ではなくなり、気軽に相談をしてもらえる存在になればうれし。

◆稲垣さんは初めから総合診療の医師になるうと思っていたのですか

私が医師を志望したきっかけは、高校一年生のときですが、先生が職員室で倒れ、突然死したことでした。その直前まで、先生はとても元気そうに見えたけれど、本当は体調が悪かったのかなとか、何かを思い悩んでいたのかなとか、当時の私は考えました。そして「先生に相談できる場所があったのか」と思うようになり、将来は何でも相談してもらえ存在になりたいと、医師を目指したのです。医学生になってから、私が理想とする医師像を実現できているのは、まさに総合診療科なのでと知りました。

◆地域の人には何を伝えたいですか

何でも相談してください。それに尽きます。